

■表紙の写真
平成以降に修繕補修されたお堂写真⑤

英霊堂



中心伽藍耐震改修工事が
終盤に差し掛かっていた平
成28年9月から12月まで「英
霊堂補強工事」が行われまし
た。明治39年(1906)に落慶
を迎えた英霊堂は、明治時代
の貴重な建造物として、現在
は大阪市指定の有形文化財に指定されています。建立から100年
以上が経ったタイミングで、お堂の四隅の大柱の補強工事と、万が
一の場合の為に堂内避難所の設置工事を行いました。

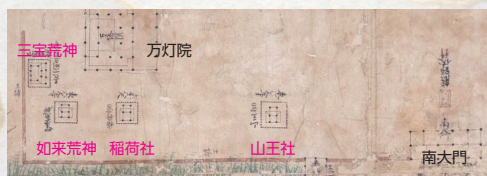
表紙の写真	平成以降に修繕補修されたお堂写真⑤	1
英霊堂		
和光の辞	萬善一乘	2
巻頭講話	聖徳太子絵伝を描いた狩野山楽	3
日常の中の仏教語⑬	凡夫(ほんぶ・ほんぶ)	10
四天王寺奇観⑧	四天王寺と法華経——細字法華経のこと	11
お知らせ	四天王寺秋季大学のご案内	13
聖徳太子の生涯とその時代④	桃花より青松を賞す	14
四天王寺の年中行事⑭	日想観	15
四天王寺を楽しむ⑤⑧	中心伽藍 西大門(極楽門)	17
工事記	六時堂・元三大師堂保存修理①⑥	19
四天王寺誌 温故知新	親鸞聖人と四天王寺(上)	21
四天王寺だより	9・10月の注目行事 金堂大般若転読会・秋季彼岸会・万灯院衣替え・ 如法写経会・経供養・告示 四天王寺行事カレンダー／大和別院 四天王寺福祉事業団／四天王寺学園 四天王寺仏教文化講演会 9・10月の開催予定	25
四天王寺の歴史	「四天王寺伽藍の変遷」第七回 明治時代の伽藍(境内の神社)②	35

四天王寺伽藍の変遷

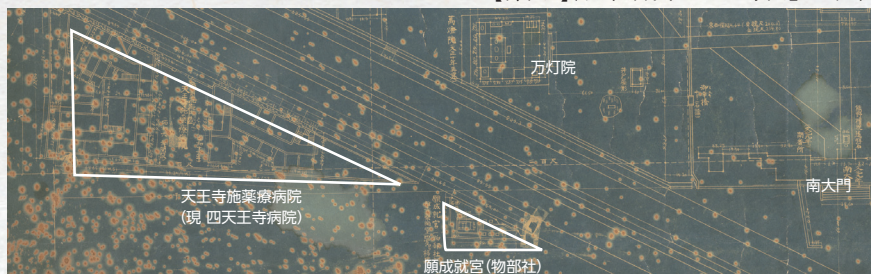
第7回 明治時代の伽藍(境内の神社)②

前回に引き続き、境内の神社について紹介いたします。今回は「願成就宮」を中心に、江戸後期から近代にかけての変遷を追います。

江戸時代、境内南西には4つの社殿が鎮座していました【挿図1】。江戸後期の文化年間(1804~17)、この内の三寶荒神が境内南東にある聖霊院付近に移築され、元々同所にあった熊野権現と合祀されます。また如来荒神は境内北西にある椎寺薬師堂の西手に移築され、六時堂に祀られていた北辰星(妙見宮)を合祀しています。稲荷社は移動せず、残る山王社は焼失し、再建されることはありませんでした。一方、願成就宮という社殿ですが、古い史料には確認されず、その建立は江戸時代後期の文政~天保年間(1818~43)とみられます。また椎寺の近辺にあったというだけで判っています。



【挿図1】「元和再興四天王寺図」18世紀

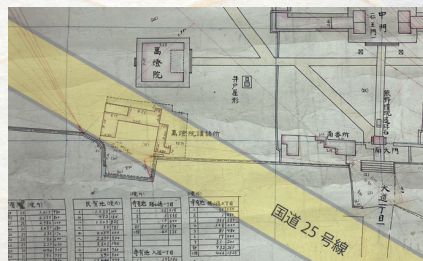


【挿図2】「大阪四天王寺境内実測平面図」昭和10年(1935)

明治26年(1893)に編纂された『四天王寺由緒沿革記』には「願成就祠 椎寺の西に在り」と記されています。椎寺薬師堂の西手には「如来荒神・妙見宮」の御社がありましたので、ここを「願成就宮」として合祀したと考えられます。また、同32年の願成就宮再建に関する書類が残されています。この頃は境内全体で様々な整備事業が行われており、その一環とみられます。

続いて、大正時代の史料には願成就宮に物部守屋を祀っていたことが記されています。守屋は江戸時代まで、先述した熊野権現社に祀られていたことが『摂津名所図会』などに紹介されていますが、幕末の文久3年(1863)に聖霊院一帯の火災で焼失しています。聖霊院は明治前期に再建されていますので、恐らくこの頃に願成就宮に合祀されたのでしょう。

以上、史料の制約上多くの推測を含みますが、江戸時代に存在した複数の小社は、様々な理由で願成就宮に集約されていったこととなります。その後、昭和4年(1929)には、南大門の外に移築されます。昭和10年の境内実測図を見ると、国道を挟んだ向かいの三角地帯という特殊な土地となっています【挿図2】。この国道は昭和2年の大阪都市計画に伴い境内地が収用されて開通したのですが、大正期の平面図に道路を重ねると、出っ張った境内地が飛び地として残ったことがよくわかります【挿図3】。願成就宮の移築は、この狭く使い勝手の悪い土地を有効活用するためとも考えられます。この社殿も昭和20年の大阪大空襲により焼失、その後再建されることなく、現在は天王寺小学校の敷地となっています。なお、物部守屋は聖霊院の東に「守屋祠」を建てて現在もお祀りしています。



【挿図3】「大阪四天王寺境内外土地実測図」大正頃の平面図を昭和10年に写したもの

現代では、何故お寺の中に鳥居や神社があるのかと尋ねられることもあります。日本人は長い歴史の中、神仏習合といい、神も仏も分け隔てなく大切にしていまいりました。その心の根底には、聖徳太子の和の精神が流れているのでしょう。

〔渡邊慶一郎〕